

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2024 年度
氏名	坂本 梨菜	指導教員 (主査)	笹川 智子准教授

論文題目	ひきこもり親和性と心配症状が大学生の職業レディネスに与える影響
------	---------------------------------

本文概要

【問題と目的】ひきこもり親和群とは、「実際にはひきこもっていないにもかかわらず、ひきこもる人の気持ちがわかるとか、じぶんでもひきこもりたいと思う人々」のことである（内閣府政策統括官，2010）。ひきこもり親和群は、一般群よりも抑うつや罪悪感、強迫、依存などの精神症状を抱えやすく、精神症状を有する確率が高いことが示されている（渡部他，2010）。また、「精神的な病気」の既往歴を有する者が多く、「ひきこもり予備軍」的な存在である可能性が高いことも明らかになっている（東京都青少年・治安対策本部，2008）。ひきこもり親和性が高いと生じる問題としては労働問題が挙げられる。高塚（2010）は、ひきこもり親和性を有する若者にとって「就職活動」が最大の課題となることを記述している。東京都青少年・治安対策本部（2008）の調査では、親和群は「職業回避傾向」が一般群よりも有意に高く、ひきこもり群と有意な差がなかったことが報告されており、就労への意識の低さが伺える。厚生労働省（2004）の調査では、大学生を採用する際に「熱意・意欲」が重要視されていることが示されているが、ひきこもり親和群においてはこうした意識が十分に成熟していないため、就職活動を行う上での妨げになると考えられる。

ひきこもりに併存する症状としては、全般不安症（Generalized Anxiety Disorder: GAD）が挙げられる。Koyama et al. (2010) は、ひきこもりの生涯を通して安定してみられる疾患が GAD のみであることを示している。心配の強い人は失敗する可能性のある行動を回避する、もしくは問題解決行動を取らずに失敗を回避しようとする傾向がある（Metzger et al., 1990）。そのため、就職活動においても過度な心配のあまり働くことについて考えることを回避することが考えられ、職業意識を表す「職業レディネス」を低めてしまうことが推測される。そこで、本研究では、ひきこもり親和性と心配症状、および職業レディネスの関連を明らかにすることを目的とする。

【方法】東京都内と熊本県内の私立大学に通う大学 2，3 年生、およびインターネットアンケートツール Questant で募集した大学 2 年生の計 193 名（2 年生男子 20 名，2 年生女子 72 名，3 年生男子 28 名，3 年生女子 73 名，平均年齢=20.28 歳，SD=0.86）を調査対象者とし、無記名式のオンライン調査を実施した。調査材料は①フェイスシート：年齢・性別・学年，②大学生用ひきこもり親和性尺度（下野他，2020），③Penn State Worry Questionnaire (PSWQ) 日本語版（原井，2011;本岡他，2009），④職業レディネス尺度（若林他，1983）を用いた。目白大学人文社会科学系研究倫理委員会による承認を受けて研究を行った。

【結果と考察】ひきこもり親和性の 2 因子（「ひきこもることへの願望」と「ひきこもる人への共感」）が心配症状を介して職業レディネスに影響を与えるというモデルを想定し、パス解析を行った。モデルの当てはまりが悪かったため、相関分析の結果を踏まえ、「ひきこもる人への共感」から心配症状へのパスを削除した。その結果、適合度指標は GFI=1.00，AGFI=1.00，CFI=1.00，RMSEA=.00 となり、十分な当てはまりを示した。「ひきこもることへの願望」から心配症状に正の影響（ $\beta=.31, p<.001$ ），職業レディネスに負の影響（ $\beta=-.47, p<.001$ ）が示され、「ひきこもる人への共感」から職業レディネスには正の影響（ $\beta=.37, p<.001$ ）が見られた。心配症状から職業レディネスへの影響は有意でなかった（ $\beta=.00, p<.001$ ）。以上の結果から、ひきこもりへの願望は職業レディネスの低さと関連し、ひきこもる人への共感は職業レディネスの高さと関連することが示された。ひきこもり親和性は心配症状を介して職業レディネスに影響するのではなく、心配症状とは別の作用機序が働いていることが示唆された。